

金井沢碑(高崎市)

ここを右手に折れると金井沢碑への入口となる



曲がり角にある万葉集の歌碑



吾^{わが}を持つと
君^{きみ}が沾^ぬれけむ
足^{あし}曳^ひの
山^{やま}の葉^はに
なり^なり^ります^すもの^のを



さて、ここが金井沢碑への入口/ここにも万葉集の歌碑がある/右手に標柱が立っている





八隅ししわご大君かむながら
神さびせすと芳野川たきつ河内に
高殿を高知りまして登りたち
国見をすればたたなはる青垣山
山神之奉る御調と春べは花かざし
持ち秋立てば黄葉かざせり
ゆきそふ川の神も
大御食おみけに仕へ奉ると
上つ瀬に鶴川を立ちて下つ
瀬に小網さし渡す山川も
依りてつかふる神の御代かも

(万葉巻一三三、昭和午新秋雅休)

(やみし) わが大君が神であるままに神として
ふるまわれるべく、古野川の 高き流れる谷間に
高殿を高々と建てられて登り立ち 国見をなさると
衆重にも重宝た、青垣山は 山の神が捧げる宝物は
これです。春の 元は假に花を飾り秋になると
色づいた黄葉を飾っている。あるいは、黄葉を飾り、
御殿に上つて流れる川の神も、お食事ご奉仕しよう、
上の瀬で御用符を御すの瀬に小網を振り廻る
山や川の神までも、めまろに心集して仕えるさまは
これが神代というものであろうか。

14

「特別史跡 金井沢之碑 入口」とある



ここを登って行く



更にこの石段を登ったところに見えるのは金井沢碑の覆屋



ここにも標柱が立っている/「史蹟 金井澤碑」とある



金井沢碑の覆屋



これは金井沢碑の碑文の拓本を印刷したもの

金井沢碑

所在地 高崎市山名町字金井沢二二三三四
昭和二十九年三月二十日 特別史跡指定

上野國 邑 幸馬 郡 下替八 郷 高田 里
三家子 子 七 世 父母 現在 父 母
現在 侍 家 刀 白 他 五 為 目 類 刀 目 入 兒 始
那 刀 目 孫 物 那 老 子 是 次 駟 刀 目 次 百 懸
刀 目 合 六 口 又 知 譜 所 結 人 三 家 毛 人
次 知 万 呂 鍛 卯 録 口 君 身 麻 呂 合 三 口
如 是 知 識 結 而 天 地 誓 願 仕 奉
石 文

神龜三年丙寅 二月廿九日

碑石に発生しはじめた亀裂の進行と文字の磨滅を防ぐ
ために国および群馬県の補助を受け覆屋を新築した。

平成三年六月

高崎市教育委員会

これが「上野三碑あるいは上毛三碑」の一つ、金井沢碑



神亀 3(726)年に立てられた石碑で輝石安山岩の自然石に112字を刻む/碑文「上野国群馬郡下賛郷高田里 三家子■為七世父母現在父母 現在侍家刀自他田君目頼刀自又児加 那刀自孫物部君午足次蹄刀自次若蹄 刀自合六口又知識所結人三家毛人 次知万呂鍛師礪マ君身麻呂合三口 如是知識結而天地請願仕奉 石文 神亀三年丙寅二月廿九日」



現代語訳

上野国(こうずけのくに)群馬郡(くるまのこおり)下賛郷(しもさぬごう)高田里(たかだのさと)に住む三家子■が(発願して)、祖先および父母の為に、ただいま家刀自(いえとじ、主婦)の立場にある他田君目頼刀自(おさだのきみめづらとじ)、その子の加那刀自(かなとじ)、孫の物部君午足(もののべのきみうまたり)、次の蹄刀自(ひづめとじ)、次の若蹄刀自(わかひづめとじ)の合せて六人、また既に仏の教えで結ばれた三家毛人(みやけのえみし)、次の知万呂、鍛師(かぬち)の礪部君身麻呂(いそべのきみみまろ)の合せて三人が、このように仏の教えによって(我家と一族の繁栄を願って)お祈り申し上げる石文(いしぶみ)である。
神亀3年丙寅(へいいん)2月29日

右側面を見たところ



参考ホームページ

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121600231/>

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/info/sanpi/04.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/013/>

<http://nordeq.web.fc2.com/shiseki/kanaizawa.html>

http://www.geocities.jp/gl_rekishi/Sekihi/GLH-KanaizawaHi.html

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/takasaki/kanaizawa.htm>

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1464.html>

